

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	中村真鈴 君				
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学教授 博士（政策・メディア）	稲蔭正彦				
	副査	慶應義塾大学教授 博士（工学）	砂原秀樹				
	副査	慶應義塾大学教授 高卒	古川享				
	副査	女子美術大学教授 学士（教育）	季里				
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>中村真鈴君の博士学位請求論文は「デジタル絵本制作ワークショップにおけるファシリテーター育成マニュアルの構築」と題して執筆されたもので、全部で6つの章から構成されている。本研究の目標は、デジタル絵本を制作するためのワークショップを普及させるために、ワークショップを効果的にファシリテーションできる人材の育成である。ファシリテーションの経験の有無に関係なく、本研究で策定したマニュアルを用いることでデジタル絵本制作のワークショップをファシリテーションできる。本論文は、複数回実施したデジタル絵本ワークショップを通して、実践的にマニュアルを活用し改善を重ねたアクションリサーチ論文として取りまとめたものである。</p> <p>第1章では、研究の動機に加え、デジタル絵本の現状、デジタル絵本を制作するためのワークショップについての整理をした上で、ファシリテーターを育成するための研究アプローチを述べている。</p> <p>第2章では、デジタル絵本を制作するための環境やワークショップに関する関連研究について調査分析を行い、本研究の立場を整理している。</p> <p>第3章では、本研究の核となるマニュアルのデザインコンセプトを決定するために3回のワークショップを実施して要件を抽出している。ワークショップは、リーダー的役割を担うファシリテーターと複数名の支援的役割のファシリテーターのチームで実施されるが、本マニュアルのターゲットをリーダー的役割のファシリテーター向けにデザインであることでマニュアルを利用するユーザーを定義している。また、このファシリテーターが求められる重要な6項目を示している。</p> <p>第4章では、リーダー的役割のファシリテーター向けに開発されたマニュアルのデザインを詳細に記述している。マニュアルは、導入、実施者（ファシリテーター）とは、実施マニュアル（事前準備・手順）、デジタル絵本を制作する上でのポイントの4項目に分けている。</p> <p>第5章では、本マニュアルを用いて3回のワークショップをファシリテーターが実施し、ワークショップ後にマニュアルの改善点を整理し、マニュアルの改良を行っている。</p> <p>第6章では、本研究を踏まえ今後の研究の将来展望についてまとめている。</p> <p>本研究は、筆者のデジタル絵本作家及びデジタル絵本制作ワークショップのファシリテーションのノウハウを生かして、複数回の実践的なワークショップを実施しながら、ワークショップの現場で役立つファシリテーター向けマニュアルを制作した点が特筆すべき点である。特に、デジタル絵本制作ワークショップの未経験者が本マニュアルを用いてリーダー的ファシリテーターとしてワークショップを効果的に実施できることを実証した点は大きな成果である。</p> <p>本研究は、デジタル絵本制作を広く普及させていくための第一歩として貢献し創造社会において多くの人の表現力が高まることに寄与することが期待できる。以上、審査の結果、本論文は博士（メディアデザイン学）の学位論文として十分な価値を有するものと認める。</p> <p>審査経過</p> <p>2016年7月9日 予備口頭試問審査会が開催され、2016年7月28日に審査の結果合格した。 予備口頭試問審査委員：中村伊知哉君、稲蔭正彦君、古川享君</p> <p>2017年12月14日、18:00-20:00 博士論文公聴会が協生館3階 S01 教室にて開催された。同公聴会終了後、同教室で博士論文審査会が開催され、全会一致で合格を決した。なお、公聴会出席者は以下の通りであった：</p> <table border="0"> <tr> <td>博士論文審査委員</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>来場者</td> <td>6名</td> </tr> </table>				博士論文審査委員	4名	来場者	6名
博士論文審査委員	4名						
来場者	6名						